

質問10 「日本の作業療法士」という意識を醸成するための目標値とプロセスについて

(該当箇所: p.13、2019 年度事業報告)

「日本の作業療法士」という意識を醸成するには、会員が何を指してそこに取り組むべきか具体的な目標値を示す必要があると思います。目標値がなければどこに向かって進めばいいのかが会員にはわかりません。目指す姿に向かうための意識を醸成するため、それぞれの事業や取組に具体的な目標値とプロセスを示す必要があると思いますがどのようにお考えでしょうか？

回答

会員の意識の醸成について具体的な目標は掲げていませんが、すべての会員が士会と協会に所属し、それぞれの活動の企画や運営に携わりますと、勤める施設における作業療法の実践という枠を超え、臨床とは違う視点での意識や知識が広がることは明らかなです。これらは体験を通しての意識の醸成であります。様々な事象を、勤務する施設、所属する士会（都道府県）、所属する協会（日本）という多層的な次元で認識し、分析し、判断する能力や習慣を身に着けることが重要だと思えます。士会や協会に所属し、その意味や役割を自覚するだけでもその認識は進むものと思えますが、その上で、前述のような士会や協会の活動に参画するという体験が加わりますと更に意識の醸成は促進されるものと思えます。

なお、「事業の具体的な目標値」としては、第三次作業療法5ヵ年戦略、各年度の重点活動項目や事業計画を示し、可能な限り具体的な達成目標を設定するようにしています。これらの事業計画に対しては、毎年度末に「事業評価」を行っており、それぞれの事業項目について達成状況を評価し、社員総会や機関誌等でご報告しているところですが、重要なのは、これらの計画を遠い他人事として傍観するのではなく、我が事として捉えることです。そうすることによって、例えばMTDLPの修得や地域ケア会議への参画、臨床実習指導者講習会の受講など、その背景と目標と方法が明示され、協会が強力に推し進めようとしている事業に一会員として積極的に取り組むようになり、また、士会活動に参画することを通して地域全体の状況や課題に目を向けたり、さらに言えば、協会の事業活動に参画することによって日本全体を視野に入れ、国の動きや他職種・他団体との関係性の中から、あるいは世界の情勢を背景に日本に作業療法士のあり方や課題を捉え直したりすることにも繋がっていきます。こうして、単なる受け手から、積極的に事業を動かす担い手へと発展・成長していき、それに伴って所属施設から、地域（都道府県）、日本、世界へと意識と視野を広げていくことが最も重要であると思えます。